

新規事業採択時評価結果（平成25年度 新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業の概要

事業名	一般国道41号 名濃バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：愛知県小牧市村中 至：愛知県犬山市五郎丸	延長	7.0km		
事業概要	一般国道41号名濃バイパスは愛知県小牧市村中から犬山市五郎丸へ至る主要幹線道路である。当該区間は、暫定4車線で供用されており、本事業は名濃バイパスを6車線化し、交通容量の拡大を図る延長7.0kmの事業である。				
事業の目的、必要性	当該区間の整備により、国道41号名濃バイパスの交通渋滞の緩和、高速ICの15分圏域の拡大により周辺住民や沿線に立地する大規模事業所の高速道路利便性の向上等が図られる。				
全体事業費	約9.5億円	計画交通量	約54,300台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
【愛知県知事】・新規事業化と早期完成に向け特段の御配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
■費用対便益：便益が費用を上回っている。
■手続きの完了：都市計画手続き完了（昭和45年11月、昭和46年3月）。

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.0	総費用：99億円 （事業費：74億円 維持管理費：25億円）	総便益：299億円 （走行時間短縮便益：278億円 走行費用減少便益：20億円 交通事故減少便益：0.1億円）	基準年 平成24年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 2.7 (交通量-10%)	B/C= 3.3 (交通量+10%)		
		事業費変動	B/C= 2.8 (事業費+10%)	B/C= 3.3 (事業費-10%)		
	事業期間変動	B/C= 2.9 (事業期間+20%)	B/C= 3.1 (事業期間-20%)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	・国道41号（村中～五郎丸）の交通容量拡大により、国道41号の旅行速度の向上が見込まれる。 ・国道41号（村中～五郎丸）の交通容量拡大により、国道41号渋滞緩和が見込まれる。 【ピーク時旅行速度の向上】 国道41号（上り）：現況21km/h ⇒ 31km/h（約5割向上） 国道41号（下り）：現況27km/h ⇒ 33km/h（約2割向上） 【損失時間の改善】 国道41号：現況 170万人時間/年 ⇒ 123万人時間/年（約28%削減） 【1kmあたり損失時間】 24万人時間/年・km（現況） ⇒ 18万人時間/年・km [愛知県県道以上平均：約7万人時間/年・km（約3.4倍）]		
		事故対策	—			
		歩行空間	—			
	社会全体への影響	住民生活	○	・国道41号の走行速度の向上により、名神高速小牧ICの勢力圏（高速道路IC15分圏域）が拡大し、周辺住民の高速道路利便性が向上。 【小牧IC15分圏人口が：58,400人 ⇒ 68,700人】		
		地域経済	◎	・国道41号の走行速度の向上により、名神高速小牧ICの勢力圏（高速道路IC15分圏域）が拡大し、沿線に立地する大規模事業所の高速道路利便性が向上し、物資輸送の速達性が向上 【小牧IC15分圏内事業所数：3,800事業所⇒4,400事業所】		
災害		—				
環境		—				
	地域社会	○	・当該地域は国道41号以外の南北幹線道路が脆弱なため、国道41号への依存度が高く、潜在交通需要も大きい。従って、6車線化による南北軸の強化は地域間連携を促進するとともに、沿線に多数立地する国内有数の製造業事業所への波及効果も大きい。			
事業実施環境	○	・昭和45年11月9日、昭和46年3月31日 都市計画決定済み。				

採択の理由

・費用対便益が3.0と便益が費用を上回っているとともに、都市計画手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
 ・また、当該区間の渋滞緩和、地域経済への効果が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。